

テーマ 国際協力と〇〇のコラボ

世界を色とりどりの形で

兵庫教育大学3年 笠原 健志

色とりどりのブロック。形も様々だ。ここから何をつくろうか頭をひねって、ああでもないこうでもないという試行錯誤しながら思いを形にしてゆく。そして次第に時間も忘れて夢中になる。

レゴブロックで遊ぶ。

あなたにはそういった経験はないだろうか？私は小さい頃レゴブロックが大好きであった。そこには何かを完成させなければならないという締めがないし、自由な遊びという点に私は虜になった。そんな幼少期共に遊んだレゴブロックの思い出にも年を重ねていくうちに埃がかぶり、大学生となった私にはまた夢中になって取り組む活動が出来た。

それは国際協力である。

昔テレビで見たカンボジアという国に魅了され、実際に渡航した私は現地に住む方々の優しさに触れ、気付けば「また行きたい」ではなく「また会いに行きたい」と笑顔を通した人とのつながりに強く心が動かされたのを覚えている。そこでふと何か出来ることはないか？と考えた。ちょうど私は将来教員になろうと志していたので日本とカンボジアの子ども達を繋ぐ取り組みがしたいと思い立ち、両国での手紙交換を試みた。日本の子ども達からメッセージを受けとり現地の言葉に翻訳をして返信をもらうというものである。

この活動を終えて私は満足していた。これでお互いを繋ぐことが出来たのだ。しかしそれを見ていた友人にこう言われた。

「あれはやって意味あったん？文字が書けない子どももいたやんか？」

...

意味があったと、思いたかった。

ああ、けど完全に自己満足であった。

文字の書けない子どものことなんて考えられなかったし、その子どもにとって手紙交換は

どうだったのか？

違う。

何かが違う。

自問自答の日々。なにせ自信を持って取り組んだ活動だったからである。そしてふと初めて渡航した時のことが頭をよぎった。

それは笑顔で繋がること。

そして

会いたいと思えることだ。

これこそが国際協力の原点なのではないか。では誰もが参加できるノンバーバルなものはないか？そこで小さな頃の記憶とが結びついた。レゴブロックだ。そこで今回私の経験を元に提案したい。

それは「国際協力とレゴブロック」のコラボである。

言葉も環境も肌の色も違う相手の国。もしかすると考えていることや、心も違うのかな？それとも一緒？そして様々な色と形のレゴブロックを用意し子ども達に問いかける。

「あなたの大切なものは何ですか？」

家、ペット、家族、何を作ってもいい。子ども達は自由に思いを形にする。絵を描く時の抵抗感や相手と比較してしまうこともレゴブロックだと少ない。そして完成品を相手に発信する。受けとった相手は完成品を見ながら日本の子ども達が大切にしているものを想像する。そして今度は自分達が大切なものを形にし日本の子ども達に発信する。

このような流れでレゴブロックを通し両国の子ども達が大切なものを交換し合う。ではなぜレゴブロックなのか？

第一にレゴブロックは誰もが参加し楽しむことが出来るという利点がある。国を超えても同じ活動が出来ることでお互いが意識し易くなる。第二に子ども達はブロックの色や形、組み立て方を工夫し考え仲間のアドバイスや協力を経て大切なものを完成させ発信する。私はそれらの活動に含まれる「考え抜くこと、仲間と協力すること、そして一歩踏み出すこと」が子どもたちの自信につながり、ステップアップへの土台になると考えている。

また「大切なもの」には必ず誰かの思いが込められている。相手の大切なものに共感や疑問を持つと共に「会ってみたい」と思うことが出来れば、子ども達の可能性は一段と広がる。なぜなら国際理解は相互理解であると考えからだ。

このようにレゴブロックを通して私が行いたいのは将来子ども達が自分に出来ることは何だろう？と国際協力に一步踏み出すための土台となる国際理解を育むことに着目した国際協力である。

世界を色とりどりにつくり
そして笑顔で繋がれるように。